

志摩市国際交流協会会報

Shima International Association

第2号 2006年4月12日
発行/志摩市国際交流協会

初年度を振り返り



副会長 清 崎 博

志摩市合併に伴い市国際交流協会が誕生し1年が経過しました。お陰さまで皆様のご協力で会員は当初の予想を上回り415名で、その広がりに関心に深く感謝申し上げます。そして、計画された諸行事は滞りなく実行できたことも喜ばしいことであります。

もとより1年目は旧各町の持ち味も生かし、また、新市としての新しい発想を模索しながらあまり無理をせずに活動を展開したのが功をそうしたと思います。

各行事を振り返れば、会員のアンケートで音楽鑑賞の声が多かったこともあり、浜島で音楽祭を計画準備しましたが、雨天のため中止やむなきにいたったことは残念でありましたが、その代わりに「スペイン・ダンスフェスティバル」は県内外からも参加があり多くの方に楽しんで頂きました。クッキングセミナーも興味深く、外国人の直接指導を受け楽しく舌鼓を打ちました。ホームステイの受け入れの活動は、日本の先端技術を学びにきている東南アジアの青年に短い2日間でありましたが我々日本人に収穫の多い行事でした。

(他の行事については「行事報告」4・5ページをご参照ください。)

組織の面では浜口喜美生会長の幅広い人間性でリーダーシップを発揮され、役員一同常に行動を共にしたこともよかった。そして、行事毎担当者をもつて決め責任の所在を明らかにして意欲的に取り組み、また、定期的に役員会議を開催し、率直に意見交換を重ねた

こと、行政事務局の前もつての行き届いた準備に助けられたこともありがたかった。

2年目を迎えるに当たり、今後の課題として、一つは会員が更に多く積極的に参加できるよう意義ある内容を考察する必要があります。次に国際感覚向上のための、しかも身近なことで継続的に魅力ある行事を構築することも大事なことでなかろうかと思えます。三つ目に若い世代に託していく内容も検討し、場を提供することもこの会の役目でありましょう。もう一つ、志摩市の近代化遺産である自然・文化・産業などを保護しながら町づくり地域振興に貢献していかなければならないとも思えます。

会員の皆様、新会員をご紹介くださりご加入を促進し、ご自身も本年度も継続加入をして頂き積極的に行事にご参加くださることをお願い申し上げます。また、法人団体加入して下さっている方にはご理解ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

いよいよ、2年目を迎えるに当たり真価が問われると思えますが、早速、5月の総会后、パラオ青少年訪問団・南カリフォルニア留学生の受け入れから始まりますが、気配りをモットーにと思えます。

幸いに当会誕生当初から市長さんはじめ行政の皆さんが側面から国際交流協会にご協力くださっていることはありがたくその期待にも応え、国際感覚の向上を自らの研鑽第一と考え努めていきたいと思えます。

会員の皆様にお願ひ

—継続会員会費の納入について—

2006年度も引き続き協会員として入会していただければ、次の方法で会費を納めていただきますようお願いいたします。

- 2006年度総会で支払う。
- 郵便局より振込を利用する。
- 事務局に届ける。
- お近くの役員に届ける。

会費納入期限は、2006年5月31日(木)まで
よろしくお願ひいたします。

南カリフォルニア移住に夢をのせて

■ 志摩市志摩町片田地区から、多くの方が南カリフォルニアに移住されています。三重県の北米移民は1885年から始まっていますが、片田地区の場合は他府県に見られないユニークなもので、たった一人の村娘さんによって一大移民ブームが引き起こされたそうです。

「南加三重県人会」創立百周年記念誌（2003年発行）から抜粋して紹介します。



「片田村からの自由の女神」

一人の娘が開いた南勢志摩地方の北米移民史



伊東りき Riki Ito

ニューヨーク港に自由の女神像が建ったのは1886年（明治19年）である。その像には「あなたの国の破れた人、貧しい人、私のところへ寄こしなさい。私は金の扉の傍らで、ランプを捧げていますから…」という意味のことが刻まれている。

1894年（明治27年）の或る日、志摩半島の寒村に突然、着飾った妙齢の洋装婦人が現れて村人達をびっくり仰天させた。そして、この女性がこの片田村のりきであるのを知って更にびっくりする。この村の医師伊東雲鱗の次女として生まれ、15歳の時、既に東京で医学を学んでいた兄を頼って上京。横浜の米人家庭のメイドになるが、家人帰米に伴われて渡米。りき17歳の時である。そして5年の在米生活の後に初めて郷里に戻った時の片田村での大騒ぎがこれである。在米生活ですっかりモダンなハイカラ女性に変身し、言葉の端々にアメリカ言葉を使うりきの評判はたちまち村中と言わず近村まで広がった。翌年の1895年、りきは彼女に感化された7人（男3、女4）の若者を伴って神戸から乗船してサンフランシスコに到着。やがてこの若者達の中から郷里に送金するようになった。年間に

して一人約300円前後の金額であったが、当時玄米1俵が3円というのが相場だったから、郷里の者を驚かさず大金であった。二十歳の若者にしてこれほどの大金が稼げるとは、一体アメリカには金の成る木でもあるのだろうか、噂は片田村のみならず志摩半島全体にまで広がった。この時の村人達には、りきは「片田村からの自由の女神」と映ったであろう。そして、これをきっかけにどんどん志摩の若者達が太平洋を越え始めた。この中には1900年（明治33年）に渡米した、後述の県人会発起人の一人である片田村からの竹内乙蔵もいた。明治末年から大正初期にかけて、海外移民者

から片田郵便局に送金された一年間の総額は、当時の村予算の3倍に達したといわれる。さて、その後のりきは夫に先立たれたのち、横須賀の知人夫妻に娘を預けて、自分はサンタバーバラに留まり、再婚。やがて助産婦の資格を得、地域社会に尽くすとともに自国からのアメリカ移民のために活躍し、85歳でその多彩かつドラマチックな生涯を終えた。南北朝時代から、その時代時代の節目には必ず名前が出て来る、志摩の九鬼水軍の流れを汲むと言われる、冒険心と勇気と進取の精神に富み、団結心の強い海洋の民の血が、りきにも確かに流れていたのがあった。

片田からの渡米について

会長 浜口喜美生

南加三重県人会は、1909年4月に設立されました。7名の三重県人が（片田村の竹内乙蔵氏も含む）県人会作りを漁場近くの小屋で熱く語り合い「リバーサイドの誓い」後6年かけて設立に至ったそうです。

また、浜野保雄氏も紹介したいお一人です。1919年、アメリカに17才で渡り、せんべい製造業「梅屋」を開業し、苦勞を重ねられたが粘り強さで困難を克服し実業家として成功されました。彼のモットー「故郷のため、できることはなんでもしたい」から伊勢湾台風の時の災害援助義援金集めや、郷里片田へも中学校建設時には同胞に呼びかけ多額の寄附を集めてくれるほか、内地に帰ってきては中小学校やお寺様にと心をつくしていただきました。日本からもいくつかの大きな表彰・授章を受けており、1972年、彼の胸像がふるさと片田に建設されました。

片田地区からのアメリカ移民について、少しでも知っていただき歴史を感じていただけましたか。おりきさんの後に続く移民者が増え、昭和17年の調査によると、旧片田村出身者在米者は232人になり、当時の人口4000人とすれば、20人に1人の比率になっていたそうです。

現在は三世の時代となってきたようですが、一世のパイオニア精神はいつまでも受け継いでいただき

たいものですね。そして、南加県人会との交流も志摩市国際交流協会として次世代に続くようなものにしていければいいと考えます。興味のある方は「おりきの松」「浜野保雄翁胸像」も見に行ってください。



2005年5月

南加県人会 高山さん
南加県人会会長 グレース前田さん
協会長 浜口

■いかがでしたか。アメリカが少し近くなった気がしませんか。

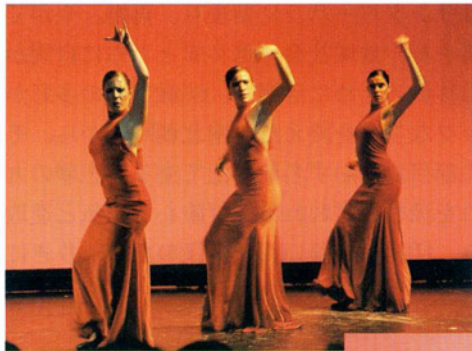
志摩市から発進する「第二のおりきさん」が世界各国に育ってくれればいいですね。

2006年度には、南カリフォルニアとの交流事業も企画予定しています。（田中）

ご参加ありがとうございます

スペインダンスフェスティバル

2005年11月20日(月) 阿児アリーナ 参加者 466名



“Encuentros (出会い) 日本-スペイン”をテーマに、カロリーナさんセルジオさんの監督により15演目が出演者・スタッフ約80名で上演されました。フラメンコ・創作ダンス・ジャグリーなどバラエティにとんだ楽しい演出と素晴らしい生演奏や踊りで、幕があがるとライティングされた舞台の上の出演者のみなさんから、気力と熱気が客席にも伝わり、異国の香りに酔いしれた2時間でした。

参加出演者のみなさん、ご協力いただいたスペイン村様ありがとうございました。(田中)



パエリアコンクール

2005年12月3日(日) スペイン村

「ピバ!パエリア!」を合図にコンテストがスタート。

全員が同じ食材で作るこのパエリアコンクールも今年で8回目、志摩市となっては初めてだが、北は、福井県、南は沖縄から全50チームのエントリーされ、マヨール広場に並んだ50のテーブルとクドは、壮観だ。



調理時間は90分、全員要領よく調理を進めて行く。中央テントに材料を取りに行く人、着火剤と格闘しながら薪に火を付ける人、カキ、エビ、バタ貝、ダシの取り方も色々、タマネギ、トマト、ピーマン、みじん切りの大きさも様々、今年はいいにくコンテスト途中から雨に降られたが、それでも皆、楽しそうに調理をしている。



調理終了後、審査(各チームをティースプーン一杯ずつ試食し採点する。50食は、審査員も結構大変)そして表彰式(雨天のため屋内会場で実施)、優勝は、伊賀市から参加の「OOKAWA」、国際交流協会賞は、安濃町「むー☆みん」志摩市から参加の「お兄さんと一緒」「大美多〜頭(おみた〜ず)」も特別賞を獲得、その後参加者全員で試食会、朝早くから夕暮れまで、「ピバ!パエリア!」な1日。(中田)



賛助会員各位 御協力ありがとうございます

志摩ロータリークラブ	(有)観光旅館 福寿荘	松和建設工業(株)	田中石油(有)豊和会	中條眼科 志摩分院	志摩観光ホテル
志摩市商工会	志摩ガス協業組合	(有)サンコウ	ANDY'S ENGLISH SCHOOL	志摩町荒波太鼓保存会	(株)志摩スペイン村
(株)セシモ	(株)波切ヤンマー商会	(株)主婦の店アルファ	(株)賢島宝生苑	(株)利八屋	(有)はたき
(有)山本建材	(株)コスミアシステム	(株)志摩商会	(株)力ワイ	志摩ホンダ販売(株)	(株)山下組
				志摩環境事業協業組合	華洋開発(株)

国際交流キャラバン「海でつながる世界と志摩市」

2006年2月19日(日) 阿児アリーナ 参加者 126名

この事業は会員参加型の「会員研修」として、計画立案から参加していただける会員を募り、4回の実行委員会を経て開催されました。主催は三重県・JICA中部国際センターで当会は共催でしたが、互いの力を借り幅広い国際協力研修会を開くことができました。



「パキスタン地震支援活動」「ネパールでの障害者支援活動」についての講演、JICAの活動紹介、志摩市在住外国人によるパネルトーク、茶道、書道、フェアトレード商品の販売、ネパールカレー・ブラジル料理の試食会もあり、盛りたくさんの内容となりました。

参加された会員の皆さん市民の皆さんには、これからの国際協力について再考していただけたのではないのでしょうか。(柴原)



— 参加者アンケートより「感想を自由に」 —

- 一般住民を対象にしているのであれば、もっとPRに力を入れないと参加者が少なくなる。講演、試食、お茶などもとてもよかったので、もったいない気がします。
- すばらしい内容でしたが、残念なのは参加者が今ひとつ？若い人(中学生・高校生)等を。
- 時間が、10:00~15:00になっていたので、昼頃に来たが、案内が一切されず、講演も途中入場可・不可も分からず、ぶらっとパネルを自分が見るのみ。「国際貢献」等に興味があるので来てみたが、いるのがつらくなる。
- 身近な場所でも、国際交流が出来ることを知りました。これからも出来るだけ参加していきたいと思っています。
- 市になって初の交流会。充実した内容でとてもよかった。試食会もめずらしいものが試食でき勉強になった。参加の皆様、日本語が上手。
- たまたまちラシで知って来たのですが、せっかくの機会なのに参加者が少なくて残念です。もっとこの様な活動を日広く知ってもらえるといいだろうなと思いました。
- 世界の様々な文化に興味をわくと共に、日本の文化をもっと知りたいと思うようになった。
- 鳥羽から来ましたが、国際交流については志摩市の方が進んでいると感じます。伊勢・鳥羽・志摩地域での連携した取り組みも必要だと感じます。民間の方が活躍されているのではないのでしょうか？人数が少ないのは少し残念です。
- 講演会を聞く方の人数が非常に少なくてさびしい気がしました。特に若い方の姿を殆どみませんでした。イベントの前に中学校や高校などにポスター等で告知すれば…。
- もっと多くの志摩市の人々が国際協力に興味を持つと良いと思う。

志摩市で頑張ってます!!

- ① 名前は？
- ② いつから志摩市に？
- ③ 志摩市に決めた理由は？
- ④ 志摩市の好きなところは？
- ⑤ 出身地は？
- ⑥ 出身地のPR
- ⑦ 日本食で好きなものは？
- ⑧ 得意なこと、趣味は？
- ⑨ 20年後の貴方はどうしてと思っていますか？



- ① アフマド ダブワン
- ② 2004年7月から志摩市にいますが、日本は8年目です。
- ③ 三重大大学院を卒業して、英虞湾の再生プロジェクト「三重県地域結集型共同研究事業コア研究室」に勤務しています。

- ④ 志摩市は海と緑がきれいなので、英虞湾を見わたせる横山やパールロード、賢島などが好きです
- ⑤ アラビア・イエメン共和国
- ⑥ アラビア半島南西部に位置し1990年5月にイエメン・アラブ共和国とイエメン民主人民共和国とが統合し、イエメン共和国となりました。面積は日本の約1.4倍、人口は日本の約6分の1。アラビア半島という砂漠やラクダをイメージしがちですが、イエメンの国土の7割は山岳地で、西は紅海、南はインド洋に面し雨に恵まれるため、多くの作物が育てられています。古代ローマ人はこの地を見て、天に祝福された「幸福のアラビア」と呼び、南アラブはアラブ発祥の地であり多くのアラブ人にとってイエメンは「心の故郷」とされています。イエメンの歴史はとても古いため、1986年にイエメンの首都であるサナアは世界遺産登録されました。また、「ノアの箱舟」伝説やシバの女王の故郷であり、彼女が広めたコーヒーの「モカ」はイエメンの港町名で重要な産物の一つです。イエメンの観光の魅力は古代と現在の文化の融合する姿をそのまま体験することができます。
- ⑦ 志摩のシーフードは新鮮でおいしくてとても口に合います。日本食はなんでも食べます。ただ宗教上、豚肉は食べられません。
- ⑧ 大学でサッカーをしていましたが、今は機会がないので残念です。最近はドライブに行きます。
- ⑨ 研究を続け、指導する立場でいたいと思います。また、環境問題の研究をしているので、世界の皆が協力しあって地球環境を大切にできる社会であってほしいと思います。




- ① JESSICA MARLISSIE PUAN
- ② 2005年8月からです。
- ③ JETプログラムのALTですから、自分で選べません。でも、親戚が和歌山にいたので、最初は和歌山県を希望していました。

- 配属されたのは三重県志摩市となりました。
- ④ 生活のペースがすごく好きです。海や山も感じが良く自然もたくさんあって、みなさんも優しく、すぐ仲良くなれました。
- ⑤ カナダのバンクーバーから来ました。
- ⑥ 自然の美しさや色々の文化を体験することができます。
- ⑦ もち、きんぴらが好きです。きんぴらの作り方も覚えたいです。
- ⑧ ダンスが好きで、フラメンコは興味があります。スキーが得意です。
- ⑨ バンクーバーに住んでいると思います。語学を生かした旅行関係の仕事や国際的な仕事についていたいと思います。

お知らせ

- 5月28日(日) 2006年度総会
- 6月15日(木)～17日(土) パラオ青少年訪問団の受入交流事業
- 7月25日(火)～31日(月) 南カリフォルニア交流事業



題字ロゴの説明

白い円は純粋で平和な地球を、斜めの赤い線は赤道を意味し、世界中手を結びながら永遠の回転を願い表現しました。
(清崎)

make up

トリノオリンピックで苦戦した日本が、ワールドベースボールクラシックで世界一になるという快挙を成し遂げたというので、テレビも新聞もどこでも大騒ぎです。これって「江戸の仇を長崎で討つ」といった雰囲気ではないでしょうか。オリンピックも野球も、本来はスポーツの国際交流なので、どうしても勝ち負けにこだわって熱くなってしまう。

志摩市国際交流協会が誕生して、まもなく1年。2006年度はさらに前進して、勝ち負けではない国際交流事業で熱くなっていきたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。(濱岡)

- 広報委員
- 田中 真理
- 清崎 博
- 濱岡 宏俊
- 事務局